

まちづくり方針

(令和7年度～令和11年度)

令和7年4月

中央三丁目・天王町町内会

(1) まちづくり方針

魅力が溢れ出るような天王町を目指します！

当町内は昭和 31 年に中嶋町、片原町、中町の 3 町内が合併し、新しく「天王町」として生まれ変わりました。平成 17 年に町内発足 50 周年を迎え、記念事業の一環として、町内史「わが町天王町の歩み」を編集発刊し、「ほかに例を見ない素晴らしい町内史」との評価をいただきました。また、昭和 35 年ごろから海岸線の浸食が進み、護岸工事を兼ねて平成 2 年に「船見公園」が整備されました。天王町から見える夕日の美しさは格別で、日中では入港を待つ貨物船が沖合に停泊し絵画のような風景に思わず「good!」の声をあげたくなります。

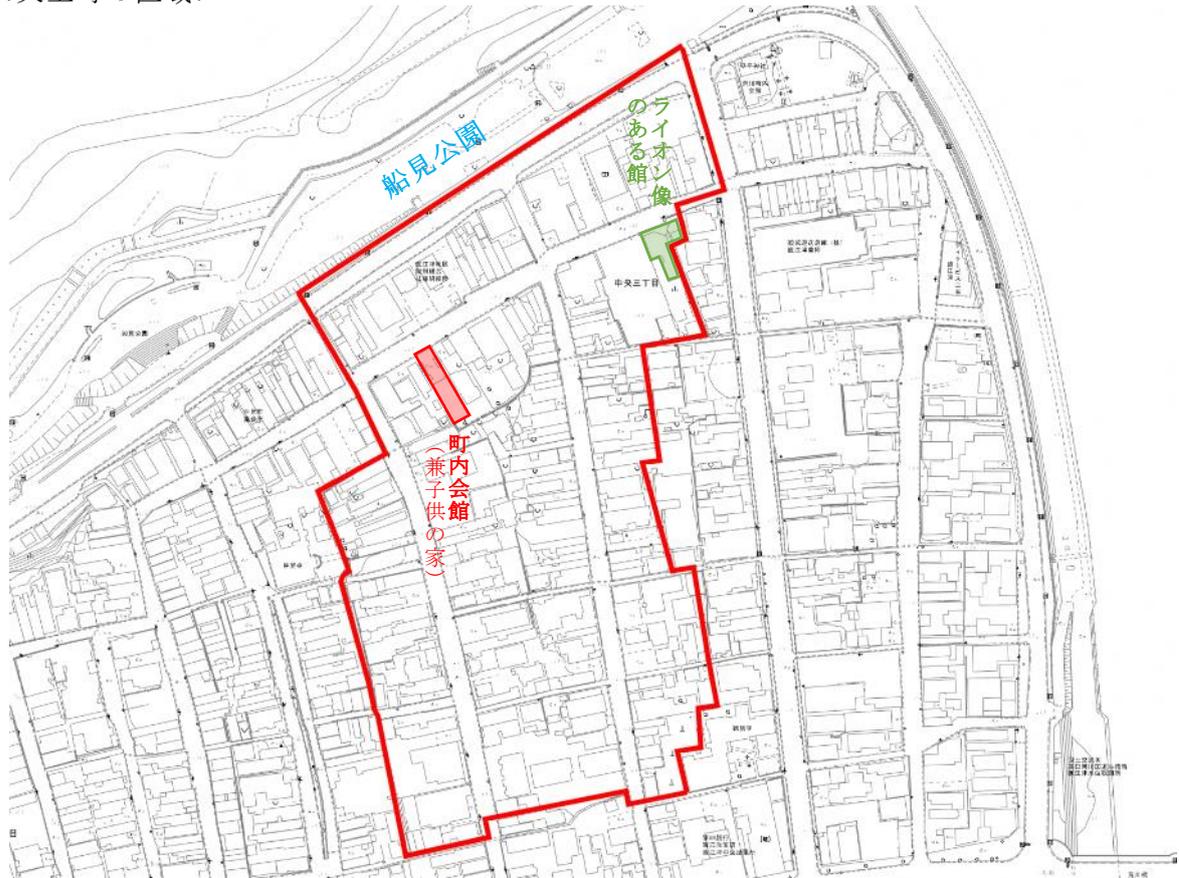
当町内の持つポテンシャルは非常に高いのではないかと考えておりますが、残念ながら社会の価値観の変化は当町内にも深刻なダメージを与えております。空き家が増え若いファミリーは郊外に転出する例が多くなりました。

ところが、近年、近隣から来た若いファミリーが家を新築する例や空き家を活用して住まれる例もみられるようになりましたが、遠くからの移住者はまだおられないようです。

このような事例を見る限り、当町内の潜在能力に気づかれておられる方もいるのではないかと感じています。

今後は、歴史あるまちを未来に引き継いでいけるよう従来からのコミュニティ力を維持発展させ、自信をもって町内の魅力を発信していきたいと考えております。

<天王町の区域>



ア 町内の現状に関すること

- ・空き家が多い（まちの1/3が空き家）
- ・土地の形が悪く、住宅が密集している。
- ・三八朝市は買い物に便利で、銀行や郵便局も近くにあり利用しやすい。
- ・南北方向の道路は幅が広いが交通量は少ない。
- ・小学校・中学校は徒歩通学でき交通事故等の心配は少ない。
- ・すぐそばに船見公園がある。また、町内に子供の家があり子育てしやすい環境
- ・災害が少ない、雪がたくさん降らない。
- ・海が近く強風、塩害が発生
- ・地域コミュニティは強いが、町内会や行事への参加者が減ってきている。
- ・夏の祇園祭や海が近いことが魅力
- ・みなとまちの歴史がある。
- ・直江津には数少ない歴史的建造物「ライオン像のある館」がある。

	世帯数	人口
現在（令和7年1月時点）	129世帯	272人
5年前（令和2年1月時点）	136世帯	305人

イ 町内の課題に関すること

- ・空き家が多い。
- ・土地の形が悪く（細長い等）、建替え困難、駐車スペースがない。
- ・住宅が密集しているので火事への不安がある。
- ・近隣の店が減少してきている。
- ・海が近く強風、塩害が発生。
- ・排雪場がない。
- ・コミュニティが強いが、よその人が入りにくい。
- ・町内会や行事への参加者が減っている。
- ・緑が少ない。

ウ 町内の将来像に関すること

◆子どもが多く、子どもの声が聞こえるにぎやかなまち

- ・子どもの声がしてにぎやか
- ・「子どもの家」に子どもが集まる



夏祭りや餅つき大会を通じて、町内外の子どもが集い、交流が生まれる

◆高齢者が元気で、交流・活躍できるまち

- ・お年寄りが最後まで住み続けたいと思う町
- ・老人会の活動など高齢者の交流がある
- ・民生委員との情報共有

◆若い人も住みやすく循環するまち

- ・新しい人が住みやすい、若者が入ってきやすい
- ・敷地内に駐車場を確保できる
- ・空き家を次につなぐ取り組み
- ・今後も住宅地として住み続けられる



転入者の意見を取り入れ、受け入れ態勢を考える
まちなか居住推進事業支援制度を PR
市と協働で空き家所有者へ意向調査を実施し、空き家の利活用を促す。
転出者情報の把握

◆コミュニティを大切に、人の交流があるまち

- ・近所の助け合いなど、人の交流がある
- ・今住んでいる人を大切にする



近隣住民で声の掛け合い
防災訓練やコミュニティ活動など町内活動の継続

◆“うみまち暮らし”をPRできるまち

- ・海が身近にあり、夕日が見える
- ・釣り、サーフィン好きが住みたくなる



マスコミ等を利用した町外への PR
船見公園、町内の美化活動

◆祭りの中心、当事者になれるまち

- ・祭りの当事者になれる
- ・天王町は祇園祭の宮元町内会であり祇園祭の中心



祇園祭を通じた青年会活動

エ まちづくり活動の推進体制に関すること

- ・空き家の解消に向けて行政と連携しながら空き家所有者へアプローチを行う。
- ・町内の年間活動計画を確実に実施し、実績を積み上げ、活力ある町内会の様子を町内だけでなく他所にもマスコミを通じて PR する。
- ・他町内の方が参加できるイベントがあれば積極的に受け入れる。
- ・回覧だけでなく町内にイベントポスター掲示し他所にも PR する。
- ・役員間の連絡はこまめに行い、小さな情報も逃さない。

オ 町内のコミュニティ維持に関すること

- ・町内の年間活動計画は三役会議で素案作成後、拡大役員会を開催し、各団体との情報共有を図り確実に実行する。
- ・イベントはコミュニティ活動の有効的な手段の一つであることから、どうしたら参加いただけるか役員で話し合い毎回の反省と工夫を凝らす。
- ・近年の大規模災害の発生は地域の防災体制の再構築を迫っています。特に地域の要支援者をどう救助するかコミュニティ力が試されます。実効力のある体制づくりに努めます。

カ 移住者との交流及び受入れ態勢に関すること

- ・年度初めに予算を計上し、新しく越してきた方との茶話会を開催し町内の印象等の情報収集に努めるなかで懇親を深め、町内の新たな魅力を発掘する。

(2) 5か年（令和7年度～令和11年度）のまちづくり活動における目標及び計画

課 題	内 容	体制	スケジュール				
			R7	R8	R9	R10	R11
定住促進 住民交流	①新しく越してきた方と茶話会を開催	町内会役員	←————→				
空き家対策	②市と連携し、空き家の所有者に対して意向調査を実施し、空き家の利活用を促す。	町内会役員	←————→				
災害対策	③防災委員会による災害対応の強化車での避難の具体的方法等を検討	防災委員会	↔				
	④垂直避難を含めた津波避難訓練の実施	町内会全体	←————→				
コミュニティ 活動	⑤夏祭り、餅つき大会の実施	町内会全体	←————→				
町内活動 実績の 積上げと PR	⑥拡大役員会での総括 コミュニティ活動を継続できるよ う反省会を実施 ⑦マスコミ等による活動のPR	拡大役員会	←————→				
計画検討	⑧R12 年度以降のまちづくり活動の 計画 ※5年間の活動を振り返り、今後の 活動計画を検討する。	町内会全体	↔				

(3) ワークショップ等の実績・検討経緯等

<令和4年5月22日 第1回ワークショップ>

- ・町内の魅力・困っていることを洗い出し、解決策について話し合い



<令和4年6月19日 第2回ワークショップ>

- ・どういうまちにしていきたいか、どこで、どういうことができそうかについて話し合い



○どういったことができそうか

- ・空き家の所有者は町内会で把握している
⇒意思確認、複数連坦空き家はまとめて活用、お試し居住
- ・アパート住人をコミュニティに巻き込む
- ・ライオン像の横の広場⇒観光拠点、滞在拠点、三八朝市の常設等
- ・リアルエステイト ZEST⇒土間開放
- ・空き家⇒売るか貸す

<令和4年8月7日 第3回ワークショップ>

- ・住民・民間事業者・行政それぞれ何ができそうかについて話し合い



(4) 町内会総会の議事録等

- ・令和6年11月9日

拡大役員会でまちなか居住推進事業の継続につき

上越市まちなか居住推進事業事務局より説明を受けその後質疑応答

- ・令和6年11月22日

三役会議で協議

三役会議でまちなか居住推進事業の継続を確認

12月7日開催の拡大役員会までに申請書の草案を上越市の事務局とすり合わせ

- ・令和6年12月7日

拡大役員会で協議

申請書の草案について、反対の意見はなかった。

- ・令和7年1月25日

まちづくり方針（案）を全戸配布

- ・令和7年3月9日

まちづくり方針（案）について、全住民を対象に説明会 16名参加

- ・令和7年4月13日

町内会総会で合意